

長崎県森山町の干拓地におけるヒメチョウゲンボウの記録

福嶋信夫・福嶋令子

〒854-0064 長崎県諫早市若葉町225-68

ヒメチョウゲンボウ *Falco naumanni* は地中海沿岸, 黒海沿岸, 中央アジア北部, 中近東, 中国北西部などで繁殖し, 地中海沿岸のものはアフリカの北緯20度以下の地域で越冬している(森岡ほか 1995). 日本では1977年 4月25日に対馬で初めて観察された(杉本ほか 1978). その後, 福島県, 長野県, 愛知県, 対馬, 西表島, 与那国島でも記録がある(日本鳥類目録編集委員会 2000, 森岡ほか 1995, 五百沢ほか 2000, 高野 1994, 真木ほか 2002). しかし詳細な記録は少ない.

筆者らは2004年 1月29日16時10分ごろ長崎県北高来郡森山町大字森山本村名付近(32°50'19"N, 130°8'3"E)でヒメチョウゲンボウ幼鳥と思われる個体を観察したので報告する.

ヒメチョウゲンボウ幼鳥と思われる個体が観察された場所は17世紀以前から干拓がなされてきた農耕地で, 堤防の外では現在も干拓工事が行なわれている場所である. 現在工事中の 7kmの堤防で仕切られた地域は約1,500haの農地を造る計画で実施されている. 干潟は完全に陸地化し, アシとセイタカアワダチソウが一面に生い茂っている. 既存の干拓地は農耕地で, おもに水田である. 所々にハス田, スッポンの養殖池, イチゴ, トマトなど栽培用のビニールハウスが点在し, 冬期から初夏にかけて麦が栽培される. 広大な工事中の草地と農耕地には昆虫や小動物が多く生息しており, 秋から春にかけて多くの猛禽類が観察される.

ヒメチョウゲンボウと思われる個体は干拓地のビ



図 1. 長崎県森山町で観察されたヒメチョウゲンボウ(撮影:福嶋 信夫)

Fig. 1. Lesser Kestrel, observed at Moriyama town Nagasaki prefecture

2004年 6月 3日 受理

キーワード: 観察記録, ヒメチョウゲンボウ, 長崎県

本論文のカラー写真を<http://www.wbsj.org/nature/database/strix/23/fukushima.html>で見ることができます

ニールハウス傍の電柱にとまっていた。およそ10分間観察し、望遠鏡にデジタルカメラを設置し数枚の写真を撮った(図 1)。その後、西の方向に飛び、およそ200m離れた電柱の柱頂に降り、またすぐに数百m離れたカントリーエレベータの屋根の上に降りた後に見失った。ちょうど夕暮れ時太陽に向かって飛んだため、飛翔の状態は観察できなかった。

この個体は、全長がチョウゲンボウ *F. tinnunculus* より小さくスマートであった。図 1で個体とまっているボルトは長さ12cmである。これを基準に個体の頭頂から尾の先端までを算出すると約31cmであり、全長33~38.5cmであるチョウゲンボウ(森岡ほか 1995)よりも、全長31~33.5cmであるヒメチョウゲンボウ(森岡ほか 1995)に近かった。胸はコチョウゲンボウ *F. columbarius* のような幅広い黒褐色の班(森岡ほか 1995)は無く、細めの疎らな縦斑がみられ、腹から下腹にかけて斑はなく淡いクリーム色であった。ヒメチョウゲンボウの爪の色は文献により異なり白(五百沢ほか 2000, Jonsson 1992), 黄白色(真木ほか 2002, 森岡ほか 1995, Nicolai et al. 2001)との記述がある。本個体の爪の色は陰の部分には灰色、日が当たっている部分は淡黄色であった。チョウゲンボウ、コチョウゲンボウの爪の色は黒であり、この点で両種ではないと判断できる。アイリングは黄色で目の後に過眼線、目の下に褐色のヒゲ状模様があった。アイリングが黄色であるからアカアシチョウゲンボウ *F. amurensis* でもないと判断した。頭部および雨覆いの茶褐色と黒い斑紋から、雌成鳥または幼鳥と判断した。ヒメチョウゲンボウとチョウゲンボウの雌および幼鳥との識別点として、この他にチョウゲンボウには過眼線および頬に髭状の黒斑がある(森岡ほか 1995, 真木ほか 2002, 五百沢ほか 2000)との記述がある。本個体には過眼線および頬に髭状の黒斑があったが、Jonsson(1992)とNicolai et al.(2001)に掲載されているヒメチョウゲンボウ雌にも過眼線、髭状の黒斑が共に認められ、これは識別要素としては採用できない。

ヒメチョウゲンボウの雌成鳥は頬、耳羽が淡青灰色であるが、本個体は薄茶色であったこと、また雨覆いの黒斑が成鳥に比べて大きいことは幼鳥の特徴を示している。以上の項目を総合し、本種はヒメチョウゲンボウ幼鳥と判断した。

本短報をまとめるにあたり、同定に際してご助言をいただいた東京都在住の野鳥写真家叶内拓也氏、文献を紹介していただいた日本野鳥の会自然保護室の植田睦之氏、同普及室の方々に感謝する。

引用文献

- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸. 2000. 日本の鳥550山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
- Nicolai, J., Singer, D. & Wothe, K. 2001. Birds of Britain & Europe. Happer Collins Publishers, London.
- Jonsson, L. 1992. Die Vögel Europas und des Mittelmeerraumes Franckh-Kosmos. Stuttgart.
- 真木広造・大西敏一. 2002. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
- 森岡照明・叶内拓也・川田隆・山形則男. 1995. 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.

- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録 改定 6版. 日本鳥学会, 帯広市.
- 杉本 怜一・出羽 誠司・高野 凱夫. 1978. 長崎県対馬にヒメチョウゲンボウ. 野鳥 43(2): 42-43.
- 高野 伸二. 1994. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会, 東京.

A record of the Lesser Kestrel at Moriyama town, Nagasaki prefecture, southern Japan

Nobuo Fukushima & Reiko Fukushima
225-68 Wakaba-cho Isahaya city Nagasaki 854-0064, Japan

A immature Lesser Kestrel *Falco naumanni* was observed at Moriyama town, Nagasaki prefecture (32° 50' 19"N, 130° 8' 3"E) on 29 Jan. 2004. Identification of the species depended on its pale horn-colored claws, and in having shorter and slenderer body than Eurasian Kestrel *F. tinnunculus* and in having narrower, dark brown streaking on the breast than Merlin *F. columbarius*. Pale brown ear-coverts and wider spots on the coverts indicated an immature.

Key words: Falco naumanni, Lesser Kestrel

